

## 陸奥湾ほたてを全国へ ～ ゆうパック発送20年 ～

むつ市漁業協同組合婦人部  
監事 運上 祥子

### 1. 地域の概要

むつ市は、下北半島の中心部に位置する総面積 68 km<sup>2</sup>、人口約 5 万人の下北地方における行政、経済、文化、教育の中心的役割を担っているまちである。(図-1)

また、平成 17 年 3 月には近隣の川内町、大畑町、脇野沢村との市町村合併により、新・むつ市として新たな歴史を刻むこととなっている。

### 2. 漁業の概要

むつ市漁業協同組合は、正組合員 88 名、准組合員 19 名の 107 名で構成されている。

漁場となる陸奥湾は全国でも有数な内湾で、ホタテガイ養殖業、ホタテガイ地まき漁業を主体にナマコ桁網漁業や各種刺網漁業・籠漁業などが営まれている。水揚げの殆どは、ホタテガイであり、数量・金額ともホタテガイに左右される。水揚げ金額は平成 4 年以降、主体となっていた地まきホタテガイの低迷やホタテガイの価格下落などにより 5～8 億円台で推移している。(図-2)

### 3. 組織と運営

むつ市漁協婦人部は平成 6 年に設立、部員 24 名で構成されている。部員の殆どがホタテガイ漁業の漁家で、海上での作業に従事しているため、時間的制約を受けるが、ゆうパック発送や生活改善、地場産品 PR、視察研修などの事業を展開している。運営資金は会費のほか、漁協からの助成金、事業収益などで賄っている。

### 4. 活動課題選定の動機

昭和 60 年代は主力のホタテガイ地まき漁業が安定し、景気もよかったことから漁家経営は順調であった。このような状況下、地元郵便局(現郵政公社)から「ホタテガイ活貝の全国発送」の提案があった。手間のかかる活貝の発送は考えも及ばない時代であったが、将来的に生産者価格の安定が重要であり、「むつ」のホタテガイを全国に PR する機会でもあることから、むつ市漁協水産研究会が中心となって、昭和 60 年、ゆうパック発送が開始された。現在では、漁協事業に発展している。

私たちは当初、漁業者の妻として、また、漁業に従事する者として参加していたが、事業開始後 10 年と時を同じくして婦人部を設立した。これにより部員相互の連携が図られ、円滑なゆうパック発送事業の展開が図られている。

### 5. 活動状況及び成果

## (1) 事業の概要

発送は毎年 12 月と 2 月（東北グルメ会）に行い、その作業は、①注文の受付・整理、②活貝の準備、③梱包、④発送の 4 つに大別される。（図－3）

### 1) 注文の受付

受付機関備付の申込用紙によるほか、これまでの申込者全てにダイレクトメールを送付して注文を受付ける。平成 16 年度に予定している発送内容は、表－1 のとおりで、消費者のニーズに対応してホタテガイ以外の水産物も盛り込んでいる。

### 2) 注文の取りまとめ及び顧客管理

申込用紙などを回収し、宛名書き（発送用紙作成）を行う。これを整理して発送日毎の作業スケジュールを組む。得られた顧客のデータはコンピュータで管理し、次年度のダイレクトメール送付などに利用される。

### 3) ホタテガイの採捕と蕃養

発送用ホタテガイには自然のおいしさを消費者に届けることができ、付着物が少なく扱い易いため、地まき貝を使用している。必要数量確保は絶対条件であり、地まき貝は砂吐きが必要なため、事前に採捕して冬季の波浪を受けにくい海域で蕃養している。蕃養にあたっては梱包作業を効率的に行うため貝の選別を行う。

### 4) 梱包

発送の当日、ホタテガイを水揚げし、発泡スチロール箱に再度選別したホタテガイを並べて計量、これに保冷剤、料理用のパンフレット、貝開き用のヘラ及び軍手を入れて、テープで密封する。これを専用ダンボール箱に入れて発送用紙を貼付する。これら一連の作業は長い経験からシステムとして確立している。

### 5) 発送

梱包を終えた箱を発送地域毎に専用コンテナに収容した後、仮設の大型テントに並べる。これをトラックに積み込み、発送完了となる。

## (2) 取扱数量及び取扱金額

事業開始時、2,687 箱だった取扱数量は、平成 2 年度、東北グルメ会（仙台郵便局の外郭団体）の注文を受けるようになり、飛躍的に伸びた。近年は、およそ 2 万箱台で安定しており、取扱金額も概ね 7 千万から 1 億円の範囲で推移している（図－4）。

## (3) 収支状況

これまでの事業収支は表－2 のとおりで、収入は発送の売上げ、支出の主なものはホタテガイ代金、賃金、送料、箱代、印刷宣伝費などである。

事業は黒字で推移しており、利益は平成 8 年度以降 1 千万円台で安定している。

## 6. 波及効果

### (1) 漁家経営の安定

陸奥湾における地まきホタテガイの価格は低迷が続いている。その kg 単価（県漁連入札価格）は平成 4 年に 200 円を割り、その後は概ね 100 円台前半で推移している。このような状況の中、この事業においては平成 7 年度まで 300 円、平成 8 年度以降は 200 円と、県漁連入札価格を上回る額で販売することができ、加えて、作業賃金も受け取ることができるため、漁家経営安定の一助となっている（図－5）。

## (2) 組織強化

婦人部員として事業に参加するようになり、組織の一員であるとの自覚が芽生え、人手が足りない時は声を掛け合い、苦しい時は励まし合って、強い連帯感によりこの事業を支援できるようになったと自負している。

## (3) P R 効果

20年にも及ぶ事業展開により取扱数量の安定が示すように消費者の信用を得、多くの顧客を得ることができた。平成15年度の発送先を地域別にみる県内向けは15%で、関東地方面向けが40%、東北地方面向けが20%となっており、遠くは沖縄まで全国47都道府県に及ぶ。また、発送後の苦情等の対応も懇切丁寧に行っており、「むつ」のホタテガイは全国的に認知されていると考えている。

## 7. 今後の計画と課題

### (1) 販売戦略

漁協では3年ほど前からホームページを開設しているが、昨年からトレーサビリティシステムの構築に着手した。発送までの一連の作業行程を写真で順次確認することができるというもので、今年度からは作業に従事した漁業者の氏名、船名、顔写真も映し出される。昨年のアクセス数は約8千件であるが、今年は1万件を超える見込みである。

今後、これを販売戦略の起爆剤として継続し、内容の充実を図ることにより「食の安全・安心」、「生産者の顔が見える商品」を消費者にアピールして販路拡大に努めていきたいと考えている。

### (2) 陸奥湾ホタテガイ漁業の生き残りをかけて

地まきホタテガイは売れないということで価格の低迷が続いているが、この事業を通じて「良いもの」は売れるということを実感している。良質なホタテガイを得るためには、健康な産卵母貝と稚貝の確保が不可欠であるが、陸奥湾全体における地まきホタテガイ用の稚貝放流数は、近年、減少傾向にある(図-6)。

また、餌不足により貝柱の発達が阻害され、「包みを開けてみたら貧弱な貝柱が・・・」となれば、この事業の存続のみならず、陸奥湾のホタテガイ漁業の存続にも関わることである。ホタテガイ漁業の生き残りをかけて、稚貝放流による産卵母貝の確保と餌不足の問題は、陸奥湾全体で考えていかなければならない。

この事業は収益を得るためのみならず、稚貝放流を通じて陸奥湾の産卵母貝を確保し、安全・安心なホタテガイ生産のためにも、これまで以上に発展させていかなければならないと考えている。

### (3) 陸奥湾ほたてを全国へ

陸奥湾のホタテガイは加工用としての出荷が大部分を占めるが、この事業により産地直送の道を拓くことができた。今後、色々なバリエーションを工夫していけば活貝の消費を拡大できると確信している。

私達は、ゆうパック発送20年にあたり、「貝は小さいが、貝柱は大きく、甘くておいしい」陸奥湾ほたてを全国にP Rし、産地直送の先駆者としての誇りと責任を持って、今後も事業を展開していく覚悟を新たにしている。



図-1 むつ市の位置

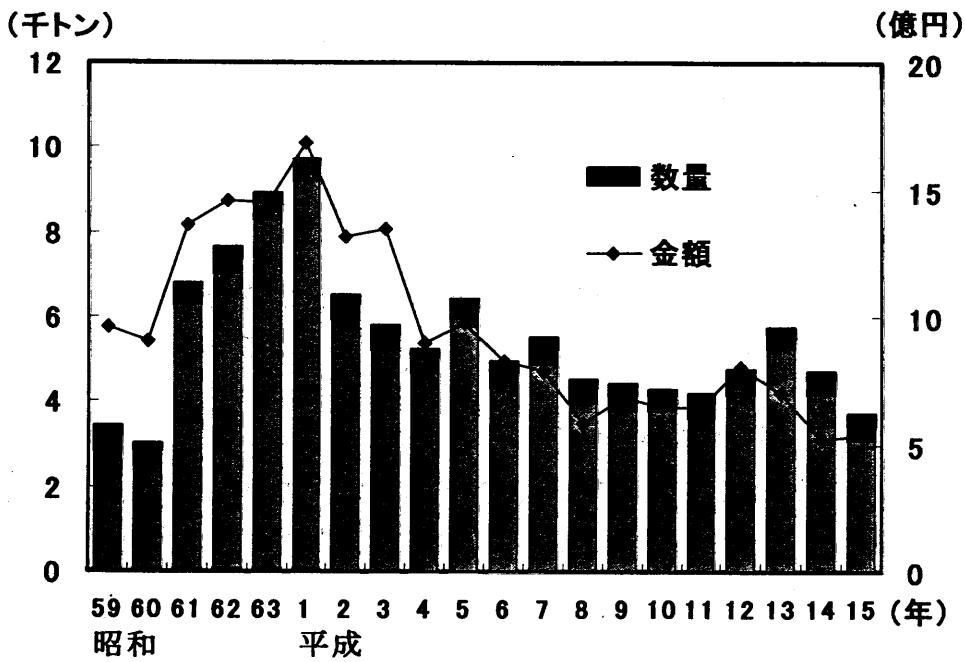


図-2 むつ市漁協の水揚げ推移

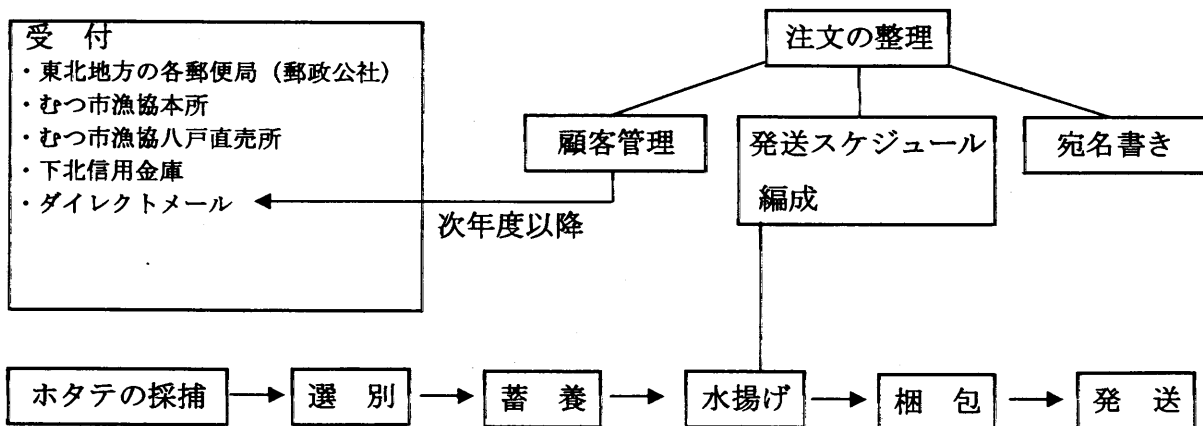


図-3 事業の流れ

表-1 発送内容

○ゆうパック

品名	内容	代金
むつホタテ生貝	約4kg	3,800円
〃	約3kg	3,200円
〃	約2kg	2,500円
瞬間冷凍ホタテ貝柱	約500g	2,500円
下北海道セット	ホタテ、ナマコ他	3,950円

○東北グルメ会

品名	内容	代金
むつホタテ・ナマコセット	ホタテ2.5kg 味付ナマコ	3,000円

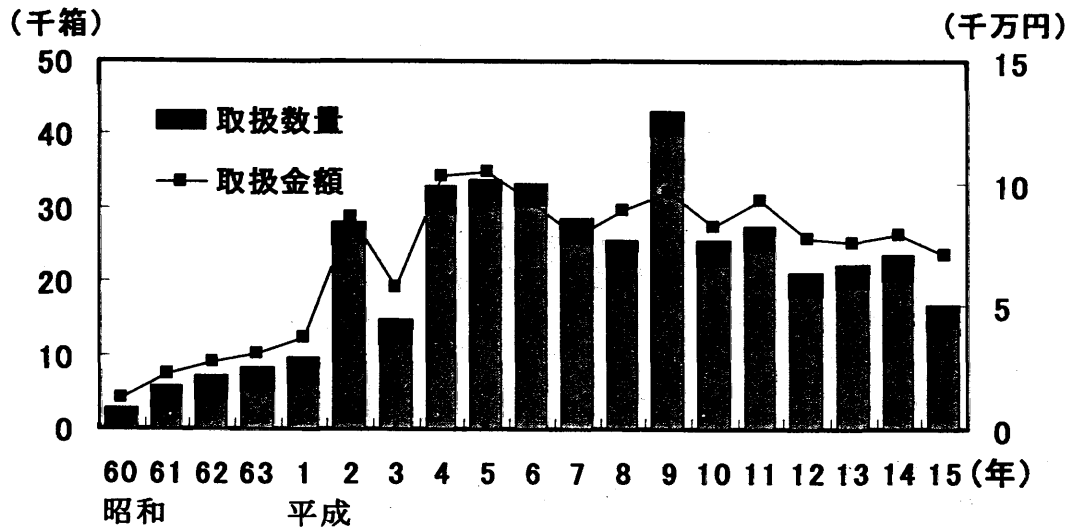


図-4 事業の取扱数量（箱数）と取扱金額の推移

表-2 事業の収支状況

(単位：千円)										
年	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6
収入	—	22,185	27,656	31,284	37,106	86,607	58,657	104,281	117,691	121,892
支出	—	19,852	24,207	24,558	29,203	70,932	56,700	95,948	112,835	111,269
利益	—	2,333	3,449	6,726	7,903	15,675	1,957	8,333	4,856	10,623

年	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
収入	102,803	88,759	96,732	82,177	93,242	77,091	76,000	78,812	70,688	—
支出	94,505	73,358	85,177	68,459	76,033	62,988	58,880	63,603	59,671	—
利益	8,298	15,401	11,555	13,718	17,209	14,103	17,120	15,209	11,017	—

※ゆうパック以外の発送も含む

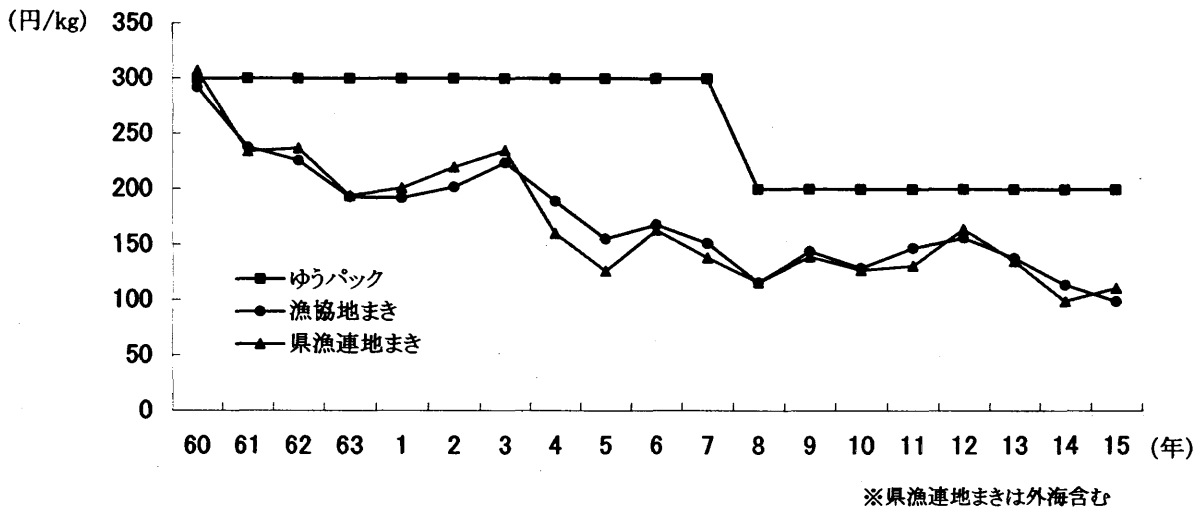


図-5 地まきホタテガイ平均単価の推移

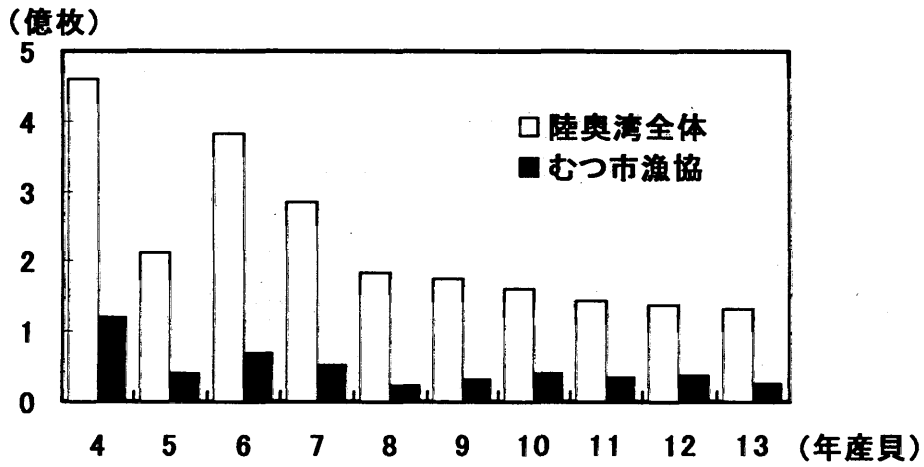


図-6 陸奥湾における稚貝放流状況

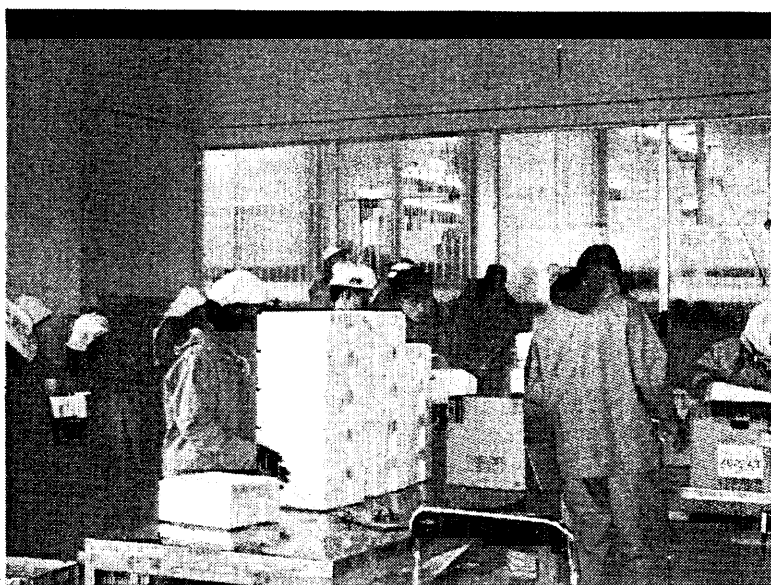
(発送風景)



(写真1) 選別作業。最終的なチェックをして品質管理する。



(写真2) 梱包作業。箱への収納には細心の注意を払う。



(写真3) 作業風景。作業場は熱気に溢れる。



(写真4) 梱包終了。発送を待つ。



(写真5) 出発式。毎年、第1便発送時に事業の成功を祈る。



(写真6) 「むつ」のホタテガイは全国の消費者に届けられる。